【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成26年12月18日(2014.12.18)

【公開番号】特開2014-208233(P2014-208233A)
【公開日】平成26年11月6日(2014.11.6)
【年通号数】公開・登録公報2014-061
【出願番号】特願2014-113086(P2014-113086)
【国際特許分類】
Ａ６３Ｆ　7/02　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６３Ｆ　7/02　３３４
Ａ６３Ｆ　7/02　３２６Ｚ
Ａ６３Ｆ　7/02　３２０

【手続補正書】
【提出日】平成26年10月15日(2014.10.15)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
所定の遊技を実行可能な遊技機であって、
遊技状態を制御するとともに遊技機で異常が発生したときに異常報知指定コマンドを送信する遊技制御手段と、
異常報知指定コマンドの受信に基づいて、音声報知手段を制御して、異常報知指定コマンドに基づく音声による異常報知を報知許容期間において行なう異常報知制御手段と、
遊技機への電力供給が停止しても所定期間記憶内容を保持可能であり、制御を行なう際に発生する変動データを記憶する変動データ記憶手段と、
遊技機への電力供給が開始されたときに、所定条件の成立に基づいて前記変動データ記憶手段の記憶内容を初期化する初期化処理を実行する初期化手段と、
前記初期化手段によって前記初期化処理が実行されたことに基づいて、初期化報知を実行する初期化報知手段とを備え、
前記異常報知制御手段は、異常報知指定コマンドを新たに受信した際、前記異常報知制御手段が先に受信済みの異常報知指定コマンドに基づく異常報知を行なっている場合に、新たに受信した異常報知指定コマンドと先に受信済みの異常報知指定コマンドとの予め定められた優先順位を比較する比較手段を含み、
前記異常報知制御手段は、
前記比較手段によって比較された結果、新たに受信した異常報知指定コマンドと先に受信済みの異常報知指定コマンドとが同じ優先順位である場合または新たに受信した異常報知指定コマンドが先に受信済みの異常報知指定コマンドよりも優先順位が低い場合に、先に受信済みの異常報知指定コマンドに基づく報知が終了した時点で、新たに受信した異常報知指定コマンドに基づいた異常報知の前記報知許容期間であれば、新たに受信した異常報知指定コマンドに基づく報知を開始し、
異常報知指定コマンドを受信した際、前記初期化報知手段が前記初期化報知を実行している場合に、前記初期化報知が終了した時点で、受信した異常報知指定コマンドに基づいた異常報知の前記報知許容期間であれば、受信した異常報知指定コマンドに基づく報知を開始する、遊技機。

【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１０】
（手段１）本発明による遊技機は、所定の遊技を実行可能な遊技機であって、
遊技状態を制御するとともに遊技機で異常（たとえば、図４７、図５７参照）が発生したときに異常報知指定コマンドを送信する遊技制御手段（たとえば、遊技制御用マイクロコンピュータ５６０、特に、図１４のステップＳ２３～ステップＳ２７，ステップＳ４２、図２７、図３１を実行する部分）と、
異常報知指定コマンドの受信に基づいて、音声報知手段（たとえば、音声出力基板７０）を制御して、異常報知指定コマンドに基づく音声による異常報知を報知許容期間において行なう異常報知制御手段（たとえば、演出制御用マイクロコンピュータ１００、特に、図４１，図５０のステップＳ７０７、図４５，図５３のステップＳ３００２、図４５，図５４のステップＳ３０１２、図４６，図５５のステップＳ３０２２、図４６のステップＳ３０２７、図５６のステップＳ３０４２を実行する部分）と、
遊技機への電力供給が停止しても所定期間記憶内容を保持可能であり、制御を行なう際に発生する変動データを記憶する変動データ記憶手段（たとえば、バックアップＲＡＭとしてのＲＡＭ５５）と、
遊技機への電力供給が開始されたときに、所定条件の成立（たとえば、クリアスイッチのオン）に基づいて変動データ記憶手段の記憶内容を初期化する初期化処理を実行する初期化手段（たとえば、遊技制御用マイクロコンピュータ５６０における図１２のステップＳ１０を実行する部分）と、
初期化手段によって初期化処理が実行されたことに基づいて、初期化報知を実行する初期化報知手段（たとえば、第２の実施の形態において、演出制御用マイクロコンピュータ１００における図５３のステップＳ３１０１～Ｓ３１１１を実行する部分）とを備え、
異常報知制御手段は、異常報知指定コマンドを新たに受信した際、異常報知制御手段が先に受信済みの異常報知指定コマンドに基づく異常報知を行なっている場合に、新たに受信した異常報知指定コマンドと先に受信済みの異常報知指定コマンドとの予め定められた優先順位（たとえば、図５７参照）を比較する比較手段（たとえば、演出制御用マイクロコンピュータ１００における図５３のステップＳ３００１Ｄ、図５４のステップＳ３０１１Ｄ、図５５のステップＳ３０２１Ｄ、図５６のステップＳ３０４１Ｄを実行する部分）を含み、
異常報知制御手段は、
比較手段によって比較された結果、新たに受信した異常報知指定コマンドと先に受信済みの異常報知指定コマンドとが同じ優先順位である場合または新たに受信した異常報知指定コマンドが先に受信済みの異常報知指定コマンドよりも優先順位が低い場合（たとえば、図５３のステップＳ３００１、図５４のステップＳ３０１０、図５５のステップＳ３０２０、図５６のステップＳ３０４１でいずれかの異常報知指定コマンドが受信されたときに、図５３のステップＳ３００１Ｃ、図５４のステップＳ３０１１Ｃ、図５５のステップＳ３０２１Ｃ、図５６のステップＳ３０４１Ｃでいずれかの異常が報知中であると判断された場合、図５３のステップＳ３００１Ｄ、図５４のステップＳ３０１１Ｄ、図５５のステップＳ３０２１Ｄ、図５６のステップＳ３０４１Ｄで報知中の異常よりも受信された異常報知指定コマンドの異常の優先順位が高くないと判断された場合）に、（たとえば、受信された異常の報知は開始されず保留され、図５３のステップＳ３００１Ｇ、図５４のステップＳ３０１１Ｇ，ステップＳ３０１４、図５５のステップＳ３０２１Ｇ，ステップＳ３０２５、図５６のステップＳ３０４１Ｇ，ステップＳ３０４４で異常報知期間のみが開始され、）先に受信済みの異常報知指定コマンドに基づく報知が終了した時点で、新たに受信した異常報知指定コマンドに基づいた異常報知の報知許容期間であれば（たとえば

、図５４のステップＳ３００６、図５５のステップＳ３０１６、図５６のステップＳ３０３６で異常報知タイマが減算され、図５３のステップＳ３００１Ａ、図５４のステップＳ３０１１Ａ、図５５のステップＳ３０２１Ａ、図５６のステップＳ３０４１Ａで未だ異常報知期間であると判断されているときに、図５３のステップＳ３００１Ｃ、図５４のステップＳ３０１１Ｃ、図５５のステップＳ３０２１Ｃ、図５６のステップＳ３０４１Ｃで優先順位の高い報知中の異常が行なわれていない、つまり終了したと判断された場合）、新たに受信した異常報知指定コマンドに基づく報知を開始し（たとえば、図５３のステップＳ３００２、図５４のステップＳ３０１２、図５５のステップＳ３０２２，ステップＳ３０２３、図５６のステップＳ３０４２で開始が保留されていた異常報知が開始される。）、

異常報知指定コマンドを受信した際、初期化報知手段が初期化報知を実行している場合（たとえば、図５３のステップＳ３００１、図５４のステップＳ３０１０、図５５のステップＳ３０２０、図５６のステップＳ３０４１でいずれかの異常報知指定コマンドが受信されたときに、図５３のステップＳ３００１Ｂ、図５４のステップＳ３０１１Ｂ、図５５のステップＳ３０２１Ｂ、図５６のステップＳ３０４１Ｂで初期化報知中であると判断された場合）に、（たとえば、受信された異常の報知は開始されず保留され、図５３のステップＳ３００１Ｇ、図５４のステップＳ３０１１Ｇ，ステップＳ３０１４、図５５のステップＳ３０２１Ｇ，ステップＳ３０２５、図５６のステップＳ３０４１Ｇ，ステップＳ３０４４で異常報知期間のみが開始され、）初期化報知が終了した時点で、受信した異常報知指定コマンドに基づいた異常報知の報知許容期間であれば（たとえば、図５４のステップＳ３００６、図５５のステップＳ３０１６、図５６のステップＳ３０３６で異常報知タイマが減算され、図５３のステップＳ３００１Ａ、図５４のステップＳ３０１１Ａ、図５５のステップＳ３０２１Ａ、図５６のステップＳ３０４１Ａで未だ異常報知期間であると判断されているときに、図５３のステップＳ３００１Ｂ、図５４のステップＳ３０１１Ｂ、図５５のステップＳ３０２１Ｂ、図５６のステップＳ３０４１Ｂで初期化報知中でない、つまり初期化報知が終了したと判断された場合）、受信した異常報知指定コマンドに基づく報知を開始する（たとえば、図５３のステップＳ３００２、図５４のステップＳ３０１２、図５５のステップＳ３０２２，ステップＳ３０２３、図５６のステップＳ３０４２で開始が保留されていた異常報知が開始される。）。

【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】
（手段１－１）手段１において、
遊技機は、各々を識別可能な複数種類の識別情報（たとえば、演出図柄）の可変表示を行ない表示結果を導出表示し、表示結果として予め定められた特定表示結果（たとえば、大当り図柄）が導出表示されたときに遊技者にとって有利な特定遊技状態（たとえば、大当り遊技状態）に制御する遊技機であって、
所定の動作を行なう可動部材（たとえば、第２の実施の形態における可動部材７８や演出羽根役物７９ａ，７９ｂなどの役物）と、
遊技機への電力供給が開始されたことに基づいて、可動部材の初期動作を実行する初期動作実行手段（たとえば、第２の実施の形態において、演出制御用マイクロコンピュータ１００における図５０のステップＳ７０８を実行する部分）とを備え、
初期化報知手段は、初期化報知の実行中に識別情報の可変表示が開始されるときには、当該識別情報の可変表示とともに初期化報知を実行し（たとえば、第２の実施の形態において、演出制御用マイクロコンピュータ１００は、図５１のステップＳ８２６１，図５２のステップＳ８４８１でＹのとき図５１のステップＳ８２６２，図５２のステップＳ８４８２を実行することにより、演出図柄の変動表示を実行する場合であっても初期化報知の

ランプ表示および音出力を継続する）、
初期動作実行手段は、初期化報知手段による初期化報知の実行を終了した後に、可動部材の初期動作を実行し（たとえば、第２の実施の形態において、演出制御用マイクロコンピュータ１００は、図５８のステップＳ３５０２でＹと判定したことを条件に図５８のステップＳ３５０３以降の処理に移行して役物の初期動作を実行する）、
可動部材の初期動作を開始するにあたって識別情報の可変表示が実行されているときには、当該識別情報の可変表示とともに可動部材の初期動作を実行する（たとえば、第２の実施の形態において、演出制御用マイクロコンピュータ１００は、役物初期動作処理において図５８のステップＳ３５０３でＮのとき演出図柄の変動表示中であるか否かにかかわらず図５８のステップＳ３５０４以降の処理に移行して役物の初期動作を開始する）。
そのような構成により、初期化処理が実行されたときに初期化報知と可動部材の初期動作とにかかる電力消費を分散することができる。また、識別情報の可変表示が実行される場合であっても初期化報知や可動部材の初期動作を実行することができる。
（手段２）本発明による遊技機の他の態様は、各々を識別可能な複数種類の識別情報（たとえば、演出図柄）の可変表示を行ない表示結果を導出表示し、表示結果として予め定められた特定表示結果（たとえば、大当り図柄）が導出表示されたときに遊技者にとって有利な特定遊技状態（たとえば、大当り遊技状態）に制御する遊技機であって、
所定の動作を行なう可動部材（たとえば、第２の実施の形態および第３の実施の形態における可動部材７８や演出羽根役物７９ａ，７９ｂなどの役物）と、
遊技状態を制御するとともに遊技機で異常（たとえば、図４７、図５７参照）が発生したときに異常報知指定コマンドを送信する遊技制御手段（たとえば、遊技制御用マイクロコンピュータ５６０、特に、図１４のステップＳ２３～ステップＳ２７，ステップＳ４２、図２７、図３１を実行する部分）と、
異常報知指定コマンドを受信する毎に、音声報知手段（たとえば、音声出力基板７０）を制御して、異常報知指定コマンドに基づく音声による異常報知を所定の報知許容期間において行なう異常報知制御手段（たとえば、演出制御用マイクロコンピュータ１００、特に、図４１，図５０のステップＳ７０７、図４５，図５３のステップＳ３００２、図４５，図５４のステップＳ３０１２、図４６，図５５のステップＳ３０２２、図４６のステップＳ３０２７、図５６のステップＳ３０４２を実行する部分）と、
遊技機への電力供給が停止しても所定期間記憶内容を保持可能であり、制御を行なう際に発生する変動データを記憶する変動データ記憶手段（たとえば、バックアップＲＡＭとしてのＲＡＭ５５）と、
遊技機への電力供給が開始されたときに、所定条件の成立（たとえば、クリアスイッチのオン）に基づいて変動データ記憶手段の記憶内容を初期化する初期化処理を実行する初期化手段（たとえば、遊技制御用マイクロコンピュータ５６０における図１２のステップＳ１０を実行する部分）と、
初期化手段によって初期化処理が実行されたことに基づいて、初期化報知を実行する初期化報知手段（たとえば、第２の実施の形態および第３の実施の形態において、演出制御用マイクロコンピュータ１００における図５３のステップＳ３１０１～Ｓ３１１１を実行する部分）と、
遊技機への電力供給が開始されたことに基づいて、可動部材の初期動作を実行する初期動作実行手段（たとえば、第２の実施の形態および第３の実施の形態において、演出制御用マイクロコンピュータ１００における図５０のステップＳ７０８を実行する部分）とを備え、
初期動作実行手段は、初期化手段による初期化処理の実行を終了した後に、可動部材の初期動作を実行し（たとえば、第２の実施の形態および第３の実施の形態において、演出制御用マイクロコンピュータ１００は、図５８，図５９のステップＳ３５０２でＹと判定したことを条件に図５８，図５９のステップＳ３５０３以降の処理に移行して役物の初期動作を実行する）、
可動部材の初期動作を開始するにあたって識別情報の可変表示が実行されているときに

は、可動部材の初期動作の実行を制限し（たとえば、第３の実施の形態において、演出制御用マイクロコンピュータ１００は、役物初期動作処理において図５９のステップＳ３５０３ＡでＹのとき図５９のステップＳ３５０４以降の処理に移行せず、役物の初期動作を開始しない）、

異常報知制御手段は、異常報知指定コマンドを新たに受信した際、異常報知制御手段が先に受信済みの異常報知指定コマンドに基づく異常報知を行なっている場合に、新たに受信した異常報知指定コマンドと先に受信済みの異常報知指定コマンドとの予め定められた優先順位（たとえば、図５７参照）を比較する比較手段（たとえば、演出制御用マイクロコンピュータ１００における図５３のステップＳ３００１Ｄ、図５４のステップＳ３０１１Ｄ、図５５のステップＳ３０２１Ｄ、図５６のステップＳ３０４１Ｄを実行する部分）を含み、

異常報知制御手段は、

比較手段によって比較された結果、新たに受信した異常報知指定コマンドと先に受信済みの異常報知指定コマンドとが同じ優先順位である場合または新たに受信した異常報知指定コマンドが先に受信済みの異常報知指定コマンドよりも優先順位が低い場合（たとえば、図５３のステップＳ３００１、図５４のステップＳ３０１０、図５５のステップＳ３０２０、図５６のステップＳ３０４１でいずれかの異常報知指定コマンドが受信されたときに、図５３のステップＳ３００１Ｃ、図５４のステップＳ３０１１Ｃ、図５５のステップＳ３０２１Ｃ、図５６のステップＳ３０４１Ｃでいずれかの異常が報知中であると判断された場合、図５３のステップＳ３００１Ｄ、図５４のステップＳ３０１１Ｄ、図５５のステップＳ３０２１Ｄ、図５６のステップＳ３０４１Ｄで報知中の異常よりも受信された異常報知指定コマンドの異常の優先順位が高くないと判断された場合）に、（たとえば、受信された異常の報知は開始されず保留され、図５３のステップＳ３００１Ｇ、図５４のステップＳ３０１１Ｇ，ステップＳ３０１４、図５５のステップＳ３０２１Ｇ，ステップＳ３０２５、図５６のステップＳ３０４１Ｇ，ステップＳ３０４４で異常報知期間のみが開始され、）先に受信済みの異常報知指定コマンドに基づく報知が終了した時点で、新たに受信した異常報知指定コマンドに基づいた異常報知の報知許容期間が経過していなければ（たとえば、図５４のステップＳ３００６、図５５のステップＳ３０１６、図５６のステップＳ３０３６で異常報知タイマが減算され、図５３のステップＳ３００１Ａ、図５４のステップＳ３０１１Ａ、図５５のステップＳ３０２１Ａ、図５６のステップＳ３０４１Ａで未だ異常報知期間であると判断されているときに、図５３のステップＳ３００１Ｃ、図５４のステップＳ３０１１Ｃ、図５５のステップＳ３０２１Ｃ、図５６のステップＳ３０４１Ｃで優先順位の高い報知中の異常が行なわれていない、つまり終了したと判断された場合）、新たに受信した異常報知指定コマンドに基づく報知を開始し（たとえば、図５３のステップＳ３００２、図５４のステップＳ３０１２、図５５のステップＳ３０２２，ステップＳ３０２３、図５６のステップＳ３０４２で開始が保留されていた異常報知が開始される。）、

異常報知指定コマンドを受信した際、初期化報知手段が初期化報知を実行している場合（たとえば、図５３のステップＳ３００１、図５４のステップＳ３０１０、図５５のステップＳ３０２０、図５６のステップＳ３０４１でいずれかの異常報知指定コマンドが受信されたときに、図５３のステップＳ３００１Ｂ、図５４のステップＳ３０１１Ｂ、図５５のステップＳ３０２１Ｂ、図５６のステップＳ３０４１Ｂで初期化報知中であると判断された場合）に、（たとえば、受信された異常の報知は開始されず保留され、図５３のステップＳ３００１Ｇ、図５４のステップＳ３０１１Ｇ，ステップＳ３０１４、図５５のステップＳ３０２１Ｇ，ステップＳ３０２５、図５６のステップＳ３０４１Ｇ，ステップＳ３０４４で異常報知期間のみが開始され、）初期化報知が終了した時点で、受信した異常報知指定コマンドに基づいた異常報知の報知許容期間が経過していなければ（たとえば、図５４のステップＳ３００６、図５５のステップＳ３０１６、図５６のステップＳ３０３６で異常報知タイマが減算され、図５３のステップＳ３００１Ａ、図５４のステップＳ３０１１Ａ、図５５のステップＳ３０２１Ａ、図５６のステップＳ３０４１Ａで未だ異常報

知期間であると判断されているときに、図５３のステップＳ３００１Ｂ、図５４のステップＳ３０１１Ｂ、図５５のステップＳ３０２１Ｂ、図５６のステップＳ３０４１Ｂで初期化報知中でない、つまり初期化報知が終了したと判断された場合）、受信した異常報知指定コマンドに基づく報知を開始する（たとえば、図５３のステップＳ３００２、図５４のステップＳ３０１２、図５５のステップＳ３０２２，ステップＳ３０２３、図５６のステップＳ３０４２で開始が保留されていた異常報知が開始される。）。

【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０４９６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０４９６】
（手段１）本発明による遊技機は、各々を識別可能な複数種類の識別情報（たとえば、演出図柄）の可変表示を行ない表示結果を導出表示し、表示結果として予め定められた特定表示結果（たとえば、大当り図柄）が導出表示されたときに遊技者にとって有利な特定遊技状態（たとえば、大当り遊技状態）に制御する遊技機であって、

所定の動作を行なう可動部材（たとえば、第２の実施の形態における可動部材７８や演出羽根役物７９ａ，７９ｂなどの役物）と、

遊技状態を制御するとともに遊技機で異常（たとえば、図４７、図５７参照）が発生したときに異常報知指定コマンドを送信する遊技制御手段（たとえば、遊技制御用マイクロコンピュータ５６０、特に、図１４のステップＳ２３～ステップＳ２７，ステップＳ４２、図２７、図３１を実行する部分）と、

異常報知指定コマンドを受信する毎に、音声報知手段（たとえば、音声出力基板７０）を制御して、異常報知指定コマンドに基づく音声による異常報知を所定の報知許容期間において行なう異常報知制御手段（たとえば、演出制御用マイクロコンピュータ１００、特に、図４１，図５０のステップＳ７０７、図４５，図５３のステップＳ３００２、図４５，図５４のステップＳ３０１２、図４６，図５５のステップＳ３０２２、図４６のステップＳ３０２７、図５６のステップＳ３０４２を実行する部分）と、

遊技機への電力供給が停止しても所定期間記憶内容を保持可能であり、制御を行なう際に発生する変動データを記憶する変動データ記憶手段（たとえば、バックアップＲＡＭとしてのＲＡＭ５５）と、

遊技機への電力供給が開始されたときに、所定条件の成立（たとえば、クリアスイッチのオン）に基づいて変動データ記憶手段の記憶内容を初期化する初期化処理を実行する初期化手段（たとえば、遊技制御用マイクロコンピュータ５６０における図１２のステップＳ１０を実行する部分）と、

初期化手段によって初期化処理が実行されたことに基づいて、初期化報知を実行する初期化報知手段（たとえば、第２の実施の形態において、演出制御用マイクロコンピュータ１００における図５３のステップＳ３１０１～Ｓ３１１１を実行する部分）と、遊技機への電力供給が開始されたことに基づいて、可動部材の初期動作を実行する初期動作実行手段（たとえば、第２の実施の形態において、演出制御用マイクロコンピュータ１００における図５０のステップＳ７０８を実行する部分）とを備え、

初期化報知手段は、初期化報知の実行中に識別情報の可変表示が開始されるときには、当該識別情報の可変表示とともに初期化報知を実行し（たとえば、第２の実施の形態において、演出制御用マイクロコンピュータ１００は、図５１のステップＳ８２６１，図５２のステップＳ８４８１でＹのとき図５１のステップＳ８２６２，図５２のステップＳ８４８２を実行することにより、演出図柄の変動表示を実行する場合であっても初期化報知のランプ表示および音出力を継続する）、

初期動作実行手段は、初期化手段による初期化処理の実行を終了した後に、可動部材の初期動作を実行し（たとえば、第２の実施の形態において、演出制御用マイクロコンピュータ１００は、図５８のステップＳ３５０２でＹと判定したことを条件に図５８のステッ

プＳ３５０３以降の処理に移行して役物の初期動作を実行する）、
可動部材の初期動作を開始するにあたって識別情報の可変表示が実行されているときには、当該識別情報の可変表示とともに可動部材の初期動作を実行し（たとえば、第２の実施の形態において、演出制御用マイクロコンピュータ１００は、役物初期動作処理において図５８のステップＳ３５０３でＮのとき演出図柄の変動表示中であるか否かにかかわらず図５８のステップＳ３５０４以降の処理に移行して役物の初期動作を開始する）、
異常報知制御手段は、異常報知指定コマンドを新たに受信した際、異常報知制御手段が先に受信済みの異常報知指定コマンドに基づく異常報知を行なっている場合に、新たに受信した異常報知指定コマンドと先に受信済みの異常報知指定コマンドとの予め定められた優先順位（たとえば、図５７参照）を比較する比較手段（たとえば、演出制御用マイクロコンピュータ１００における図５３のステップＳ３００１Ｄ、図５４のステップＳ３０１１Ｄ、図５５のステップＳ３０２１Ｄ、図５６のステップＳ３０４１Ｄを実行する部分）を含み、
異常報知制御手段は、
比較手段によって比較された結果、新たに受信した異常報知指定コマンドと先に受信済みの異常報知指定コマンドとが同じ優先順位である場合または新たに受信した異常報知指定コマンドが先に受信済みの異常報知指定コマンドよりも優先順位が低い場合（たとえば、図５３のステップＳ３００１、図５４のステップＳ３０１０、図５５のステップＳ３０２０、図５６のステップＳ３０４１でいずれかの異常報知指定コマンドが受信されたときに、図５３のステップＳ３００１Ｃ、図５４のステップＳ３０１１Ｃ、図５５のステップＳ３０２１Ｃ、図５６のステップＳ３０４１Ｃでいずれかの異常が報知中であると判断された場合、図５３のステップＳ３００１Ｄ、図５４のステップＳ３０１１Ｄ、図５５のステップＳ３０２１Ｄ、図５６のステップＳ３０４１Ｄで報知中の異常よりも受信された異常報知指定コマンドの異常の優先順位が高くないと判断された場合）に、（たとえば、受信された異常の報知は開始されず保留され、図５３のステップＳ３００１Ｇ、図５４のステップＳ３０１１Ｇ，ステップＳ３０１４、図５５のステップＳ３０２１Ｇ，ステップＳ３０２５、図５６のステップＳ３０４１Ｇ，ステップＳ３０４４で異常報知期間のみが開始され、）先に受信済みの異常報知指定コマンドに基づく報知が終了した時点で、新たに受信した異常報知指定コマンドに基づいた異常報知の報知許容期間が経過していなければ（たとえば、図５４のステップＳ３００６、図５５のステップＳ３０１６、図５６のステップＳ３０３６で異常報知タイマが減算され、図５３のステップＳ３００１Ａ、図５４のステップＳ３０１１Ａ、図５５のステップＳ３０２１Ａ、図５６のステップＳ３０４１Ａで未だ異常報知期間であると判断されているときに、図５３のステップＳ３００１Ｃ、図５４のステップＳ３０１１Ｃ、図５５のステップＳ３０２１Ｃ、図５６のステップＳ３０４１Ｃで優先順位の高い報知中の異常が行なわれていない、つまり終了したと判断された場合）、新たに受信した異常報知指定コマンドに基づく報知を開始し（たとえば、図５３のステップＳ３００２、図５４のステップＳ３０１２、図５５のステップＳ３０２２，ステップＳ３０２３、図５６のステップＳ３０４２で開始が保留されていた異常報知が開始される。）、
異常報知指定コマンドを受信した際、初期化報知手段が初期化報知を実行している場合（たとえば、図５３のステップＳ３００１、図５４のステップＳ３０１０、図５５のステップＳ３０２０、図５６のステップＳ３０４１でいずれかの異常報知指定コマンドが受信されたときに、図５３のステップＳ３００１Ｂ、図５４のステップＳ３０１１Ｂ、図５５のステップＳ３０２１Ｂ、図５６のステップＳ３０４１Ｂで初期化報知中であると判断された場合）に、（たとえば、受信された異常の報知は開始されず保留され、図５３のステップＳ３００１Ｇ、図５４のステップＳ３０１１Ｇ，ステップＳ３０１４、図５５のステップＳ３０２１Ｇ，ステップＳ３０２５、図５６のステップＳ３０４１Ｇ，ステップＳ３０４４で異常報知期間のみが開始され、）初期化報知が終了した時点で、受信した異常報知指定コマンドに基づいた異常報知の報知許容期間が経過していなければ（たとえば、図５４のステップＳ３００６、図５５のステップＳ３０１６、図５６のステップＳ３０３

６で異常報知タイマが減算され、図５３のステップＳ３００１Ａ、図５４のステップＳ３０１１Ａ、図５５のステップＳ３０２１Ａ、図５６のステップＳ３０４１Ａで未だ異常報知期間であると判断されているときに、図５３のステップＳ３００１Ｂ、図５４のステップＳ３０１１Ｂ、図５５のステップＳ３０２１Ｂ、図５６のステップＳ３０４１Ｂで初期化報知中でない、つまり初期化報知が終了したと判断された場合）、受信した異常報知指定コマンドに基づく報知を開始する（たとえば、図５３のステップＳ３００２、図５４のステップＳ３０１２、図５５のステップＳ３０２２，ステップＳ３０２３、図５６のステップＳ３０４２で開始が保留されていた異常報知が開始される。）。

そのような構成により、初期化処理が実行されたときに初期化報知と可動部材の初期動作とにかかる電力消費を分散することができる。また、識別情報の可変表示が実行される場合であっても初期化報知や可動部材の初期動作を実行することができる。

今回開示された実施の形態は全ての点で例示であって制限的なものではないと考えられるべきである。本発明の範囲は上記した説明ではなく特許請求の範囲によって示され、特許請求の範囲と均等の意味および範囲内での全ての変更が含まれることが意図される。